

## 大阪人間科学大学 卒業生・就業先アンケート（2025 年 3 月卒業生対象）

### 1. 実施概要

本アンケートは、大阪人間科学大学卒業生（2025 年 3 月卒業）、また本学卒業生の就職先事業所を対象にアンケート調査を実施した。今後の教育活動の改善および卒業生支援に活用することを目的に本アンケートを実施した。

調査対象：2025 年 3 月卒業生および対象卒業生の就職先事業所

実施期間：2024 年 8 月 8 日から 8 月 30 日（25 日間）

実施方法：Google Form を用いたアンケート

### 2. アンケート回答数

#### ・卒業生

| 学部 学科         | 回答件数 |
|---------------|------|
| 保健医療学部 理学療法学科 | 16   |
| 保健医療学部 言語聴覚学科 | 3    |
| 保健医療学部 作業療法学科 | 6    |
| 人間科学部 社会福祉学科  | 17   |
| 人間科学部 子ども教育学科 | 13   |
| 人間科学部 視能訓練専攻  | 6    |
| 心理学部 心理学科     | 13   |
| 合計            | 74   |

卒業生全体の回答率は、28.4%であった。

#### ・就職先事業所

| アンケート送付数 | 回答件数 |
|----------|------|
| 128      | 48   |

全体の回答率は、37.5%であった。

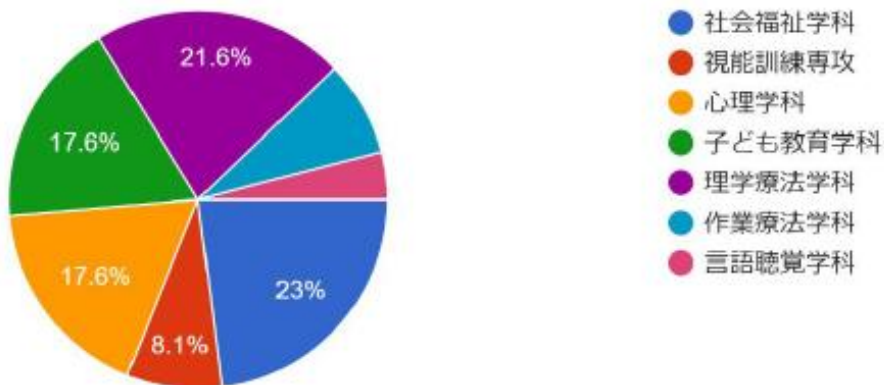
## 卒業生アンケート 2025 回答

アンケート送付数：261

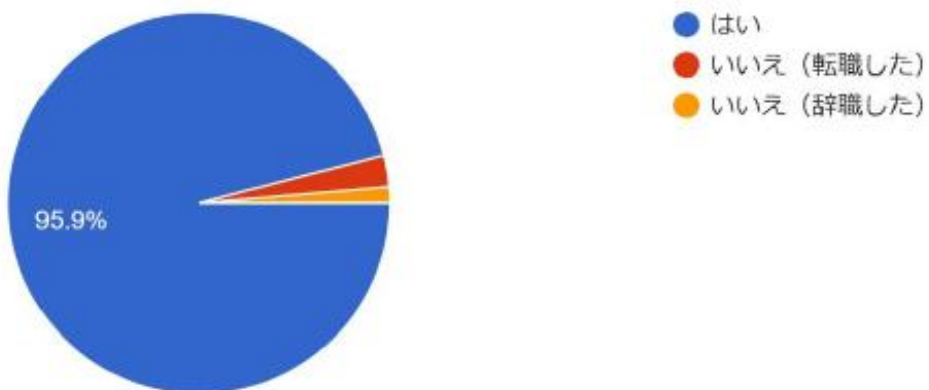
回答数：74

回収率：28.4%

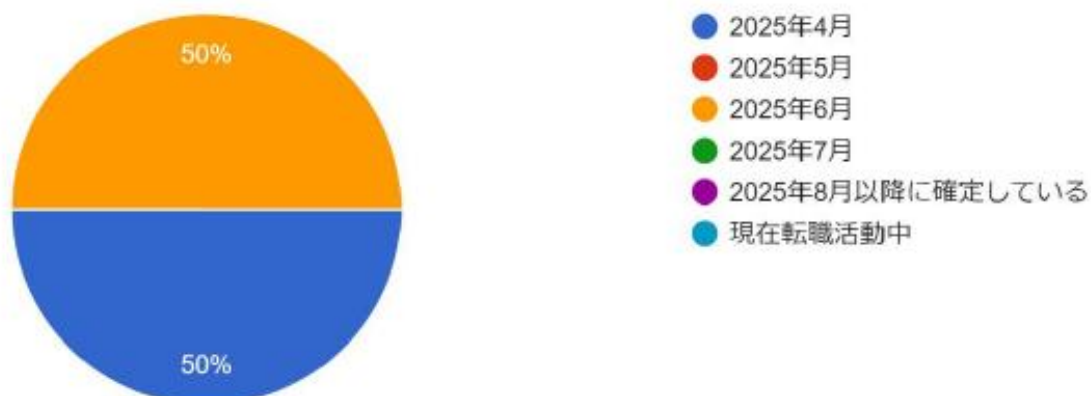
### ■所属していた学科



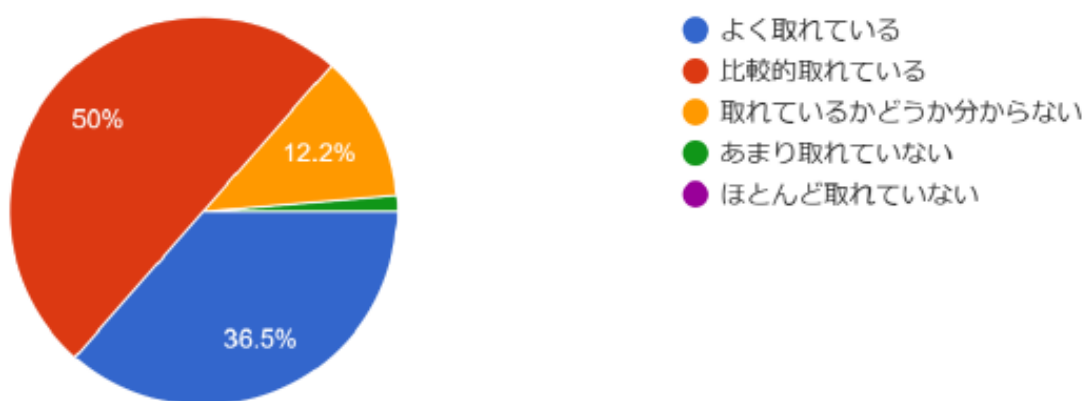
### ■現在も卒業時の就職先に勤務しておられますか



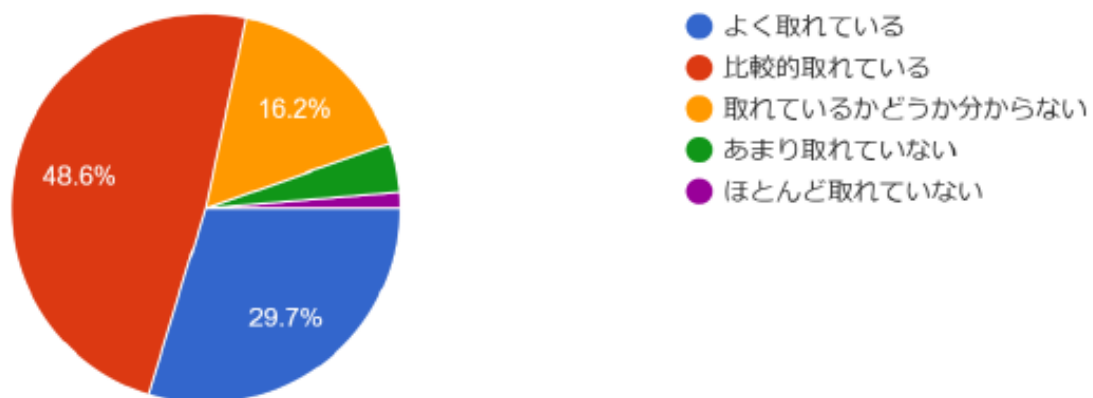
■「いいえ」を選ばれた方は転職または辞職の時期を教えてください



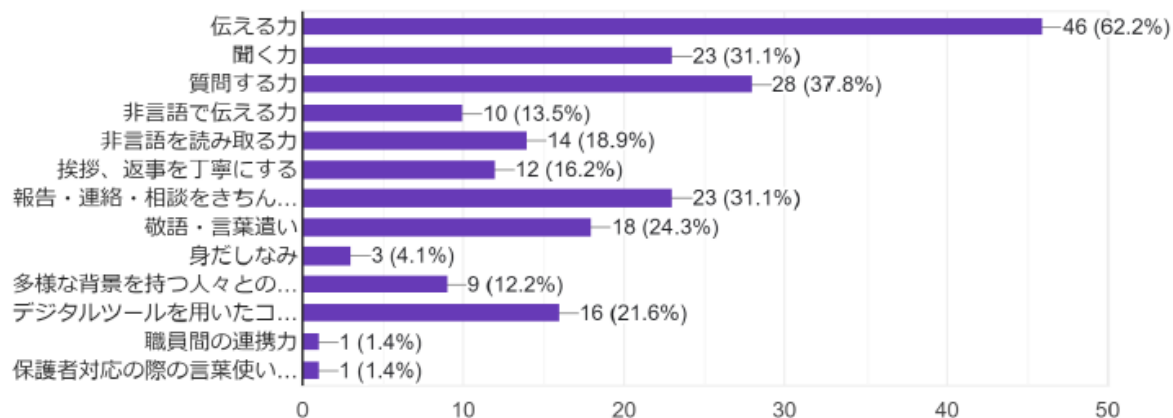
■同僚や上司と円滑なコミュニケーションが取れていると思いますか。1つだけマークしてください。



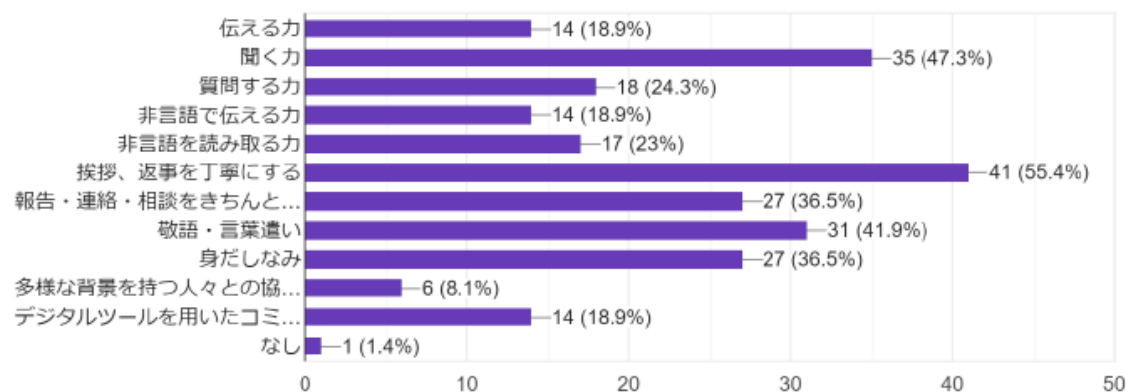
■他職種の方や患者様、利用者様、取引先様といった外部の人と円滑にコミュニケーションが取れていると思いますか。1つだけマークしてください。



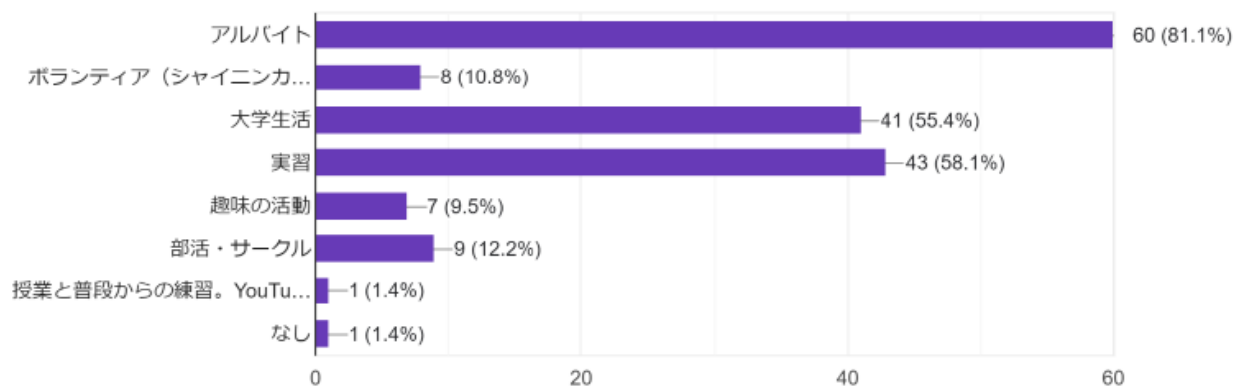
■学生時代に、もっと身に付けておけば良かったと感じるコミュニケーション能力はありますか（複数選択可）



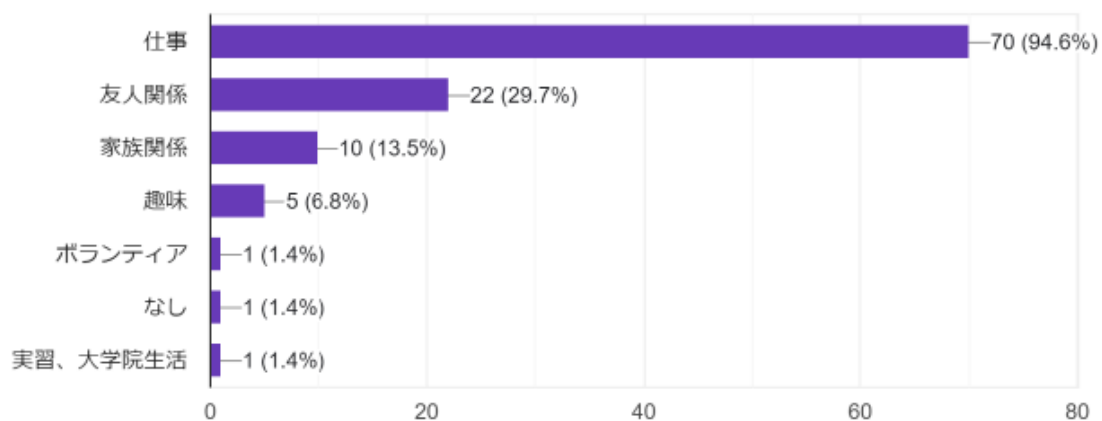
■学生時代に、身に付いた・自信を持てるようになったと感じるコミュニケーション能力はありますか？（複数選択可）



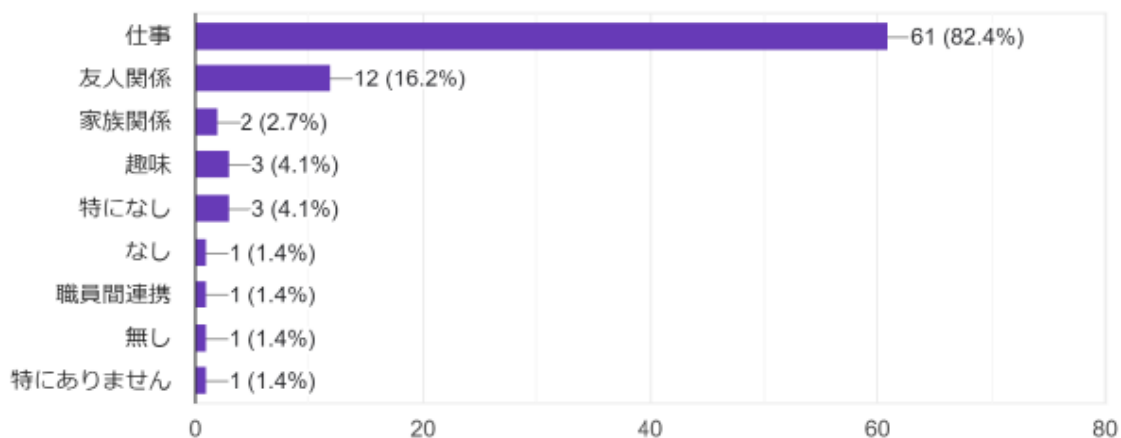
■前述のコミュニケーション力はどのような活動の中で身に付いた（成長）しましたか。（複数選択可）



■卒業後どのような場面で前述の力を発揮していますか（複数選択可）



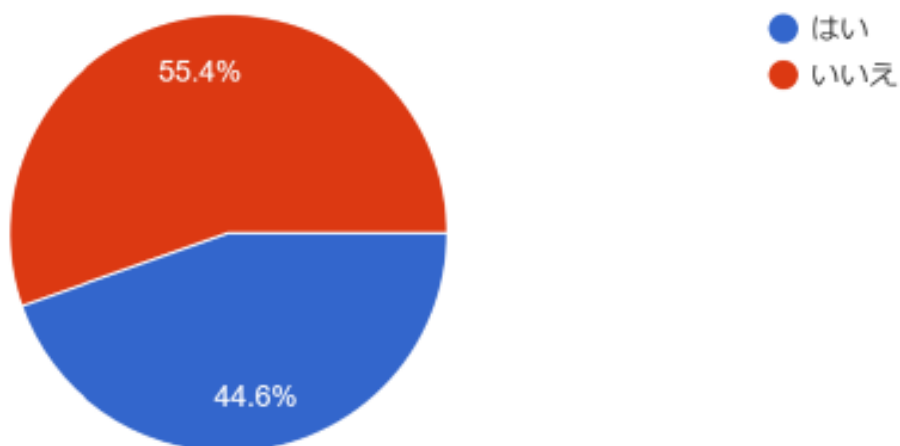
■コミュニケーション面で課題を感じる場面はありますか？（複数選択可）



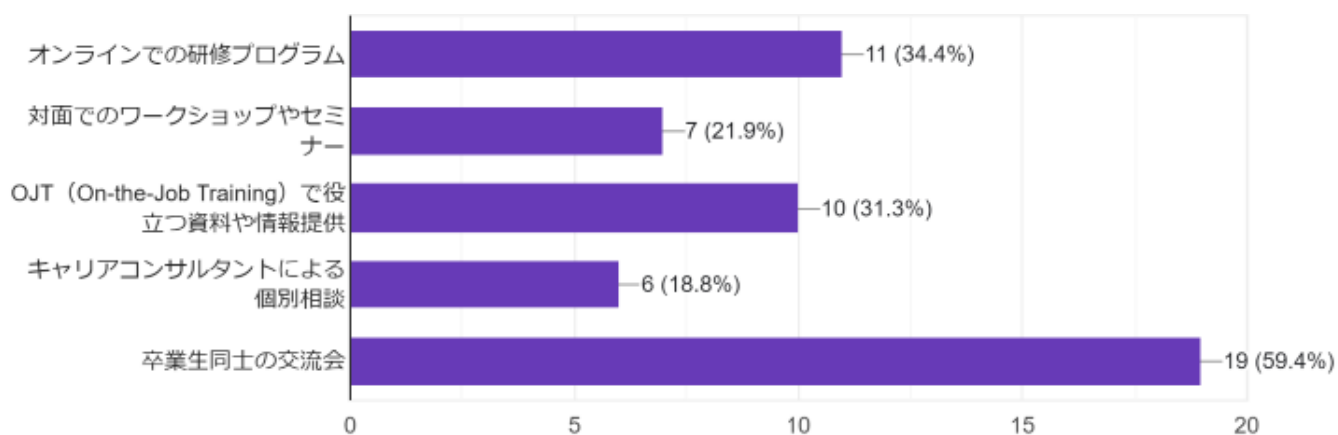
■上記の選択肢において具体的にどのような場面でしょうか？（自由記載）

- ・初対面だと上手く話せない
- ・質問するのが苦手
- ・先輩職員が大変忙しくしているところに声掛けをするのが苦手
- ・距離感が難しい
- ・考えを上手く伝えられない

■今後、大学からコミュニケーション能力向上に関する何らかの支援（研修、情報提供など）があれば利用したいと思いますか？



■（「はい」と答えた方のみ）どのような支援が有効だと考えますか？（複数選択可）



## ■考察

今回の調査結果から、卒業生は社会で活躍する上でコミュニケーション能力を非常に重要視していることが明らかとなった。特に「伝える力」は、学生時代に身についたと感じる学生も一定数存在するが、もっと身につけておけばよかったと感じている、卒業生も存在するという両面性の高い項目であることが特徴的であった。

また仕事においてコミュニケーションに課題を感じる場面がこれは、学生時代に培ったコミュニケー

ション能力が、社会人として求められるレベルとは異なる場合があることを示している。大学としては、卒業後のキャリアを見据えた、より実践的なコミュニケーションスキルの育成を支援することが求められているのではないかと考える。具体的には、実践的なスキルを学ぶ機会の提供すること、つまり「伝える力」や「報告・連絡・相談」といったビジネスシーンで即戦力となるスキルを、授業（正課、正課外含む）や実習に組み込むことが必要ではないだろうか。

これらの取り組みを通じて、卒業生が社会でより自信を持って活躍できるよう、継続的なサポートを提供していくことが重要であると考ええる。

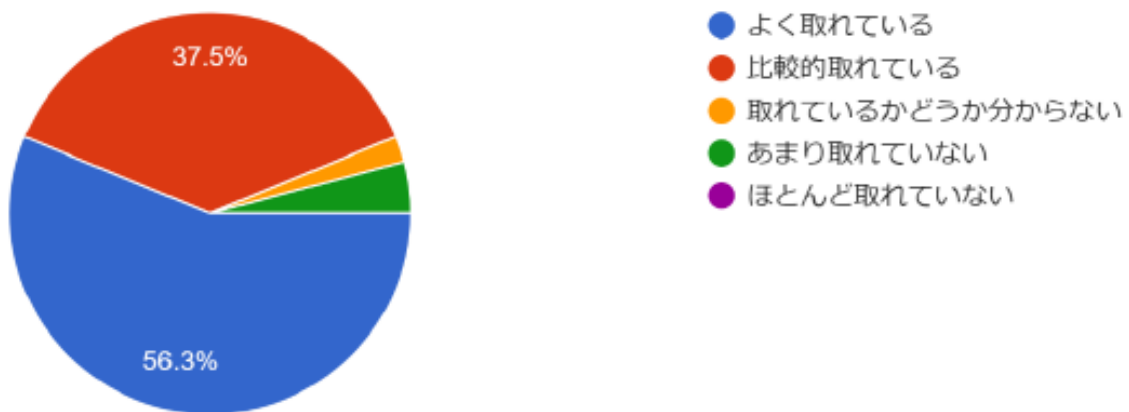
## 就職先アンケート 2025 回答

アンケート送付数：128

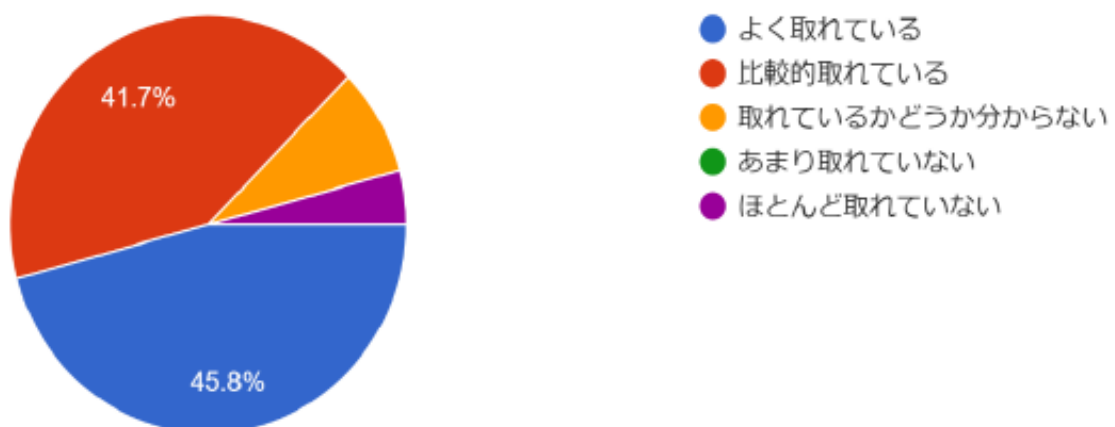
回答数：48

回収率：37.5%

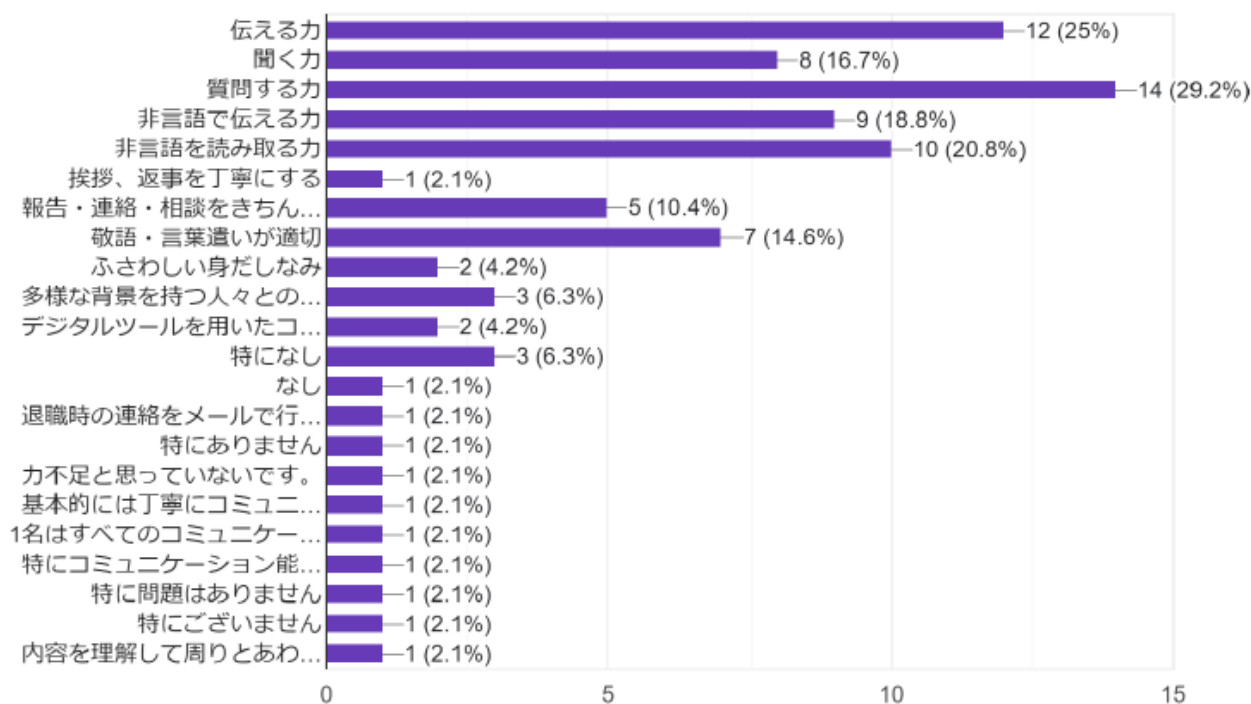
■ 本学卒業生は、同僚や上司の皆様と円滑なコミュニケーションが取れていますでしょうか



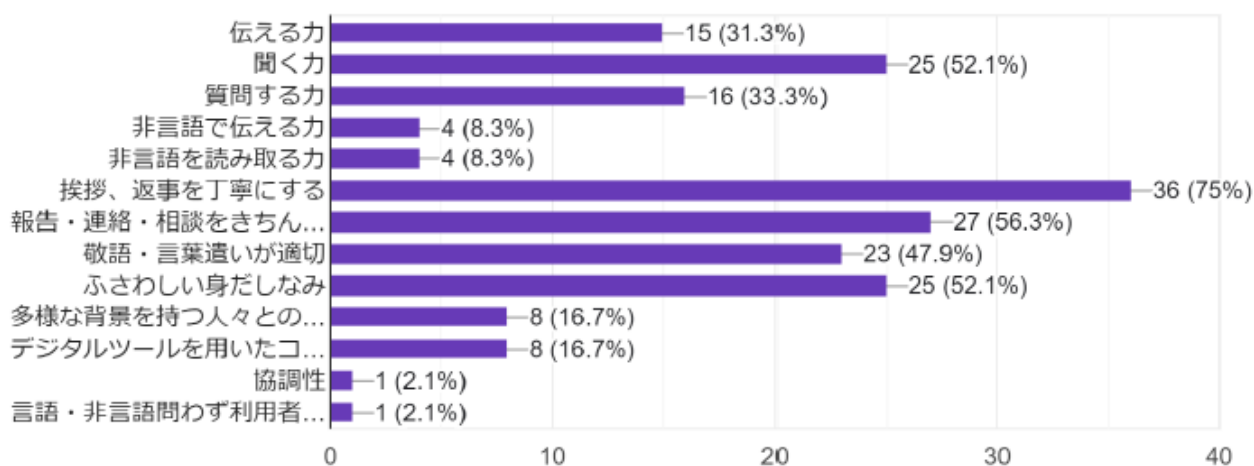
■ 本学卒業生は、他職種の方や患者様、利用者様、取引先様といった外部の人と円滑にコミュニケーションが取れていますでしょうか



■本学卒業生に対し、どのようなコミュニケーション力が不足していると感じることがありますか？（複数選択可）



■本学卒業生に対し、社会人になる時点で身に付いていたと感じるコミュニケーション力はどのようなものでしょうか？（複数選択可）



■貴社・貴法人で活躍されている新卒性の特徴をお教えてください

※複数の意見が出たため、整理しました。

1. 人柄・態度

- ・非常に真面目で、素直な性格の職員が多い。
- ・謙虚で、先輩や他職種からのアドバイスを学ぶ姿勢がある。
- ・礼儀正しく、丁寧な言葉遣いで接している。
- ・優しい、穏やかな性格である。
- ・チームワークや仲間を大切にする姿勢が見られる。
- ・明るく活発で、毎日元気に職場に来ている。
- ・業務に積極的に取り組み、主体的・能動的に動ける。

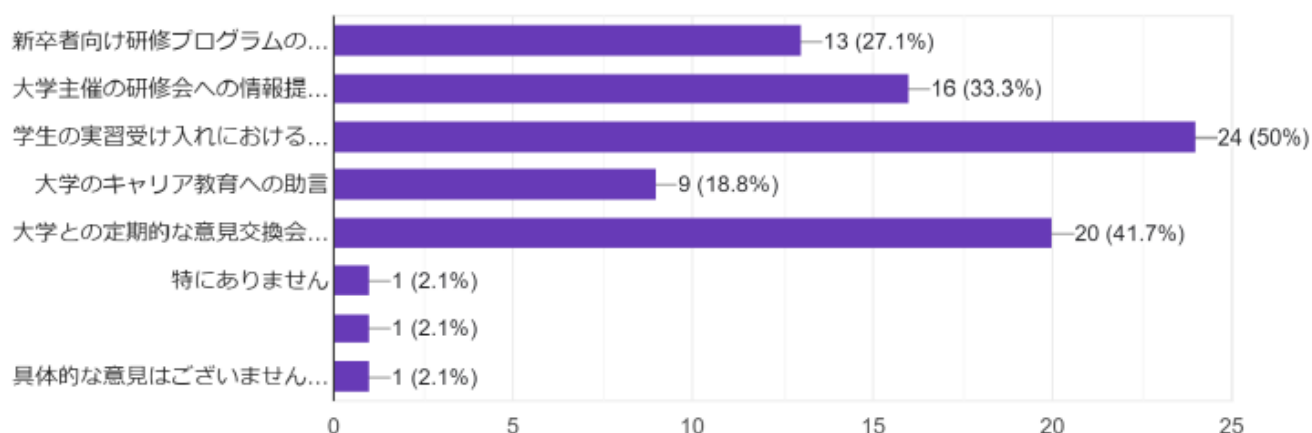
2. 業務への取り組み・能力

- ・利用者様と積極的にコミュニケーションをとり、身になって考え行動できる。
- ・利用者の個々のレベルに合わせた丁寧な関わりをしている。
- ・学ぶ意欲や成長意欲がある。
- ・知識や技術を習得しようとする姿勢に長けている。
- ・技術が新卒にしてはしっかり出来ている。
- ・コミュニケーション力が高く、細かいところに気が付く。
- ・言語化する力を持っている。

3. 組織への貢献・課題

- ・報告・連絡・相談（ホウレンソウ）がしっかりできる。
- ・現場での疑問や悩みをチームや上司に相談する力がある。
- ・先頭で引っ張るよりも、支える側に回る職員が多い。
- ・全体的に大人しいタイプが多い。

■今後、大学が卒業生のコミュニケーション能力向上に関して何らかの支援を行う場合、どのような連携や情報提供を期待されますか？（複数選択可）



## ■考察

本アンケートは、主に卒業生の職場におけるコミュニケーション能力の実態を把握し、今後の教育プログラムの改善に資することを目的として実施した。

調査結果の全体像として、本学卒業生は職場において円滑なコミュニケーションを実践できていると高く評価されていることが確認されました。特に、同僚や上司といった内部関係者とのコミュニケーションについては、93.8%（「よく取れている（37.5%）」と「比較的取れている（56.3%）」）が肯定的な評価となった。また、外部関係者（他職種の方や患者様、利用者様、取引先様など）に対しても、87.5%（「よく取れている」41.7%、「比較的取れている」45.8%）が円滑なコミュニケーションが取れていると評価しており、社会人としての基礎的な対人能力は十分に備わっていると言える。

卒業生が大学で身に付けていたと感じるコミュニケーション力としては、「挨拶、返事を丁寧にする」が75%で最も高く評価された。これに「報告・連絡・相談をきちんとする」（56.3%）、「聞く力」「ふさわしい身だしなみ」（52.1%）が続き、基本的なビジネスマナーが身についており、職場で強みとして機能していることが示唆される。これは、大学教育における基礎的な対人スキル教育が効果を上げている成果であると捉えている。

一方で、卒業生に不足していると感じるコミュニケーション力として、回答者の約3割にあたる29.2%が「質問する力」を挙げ、最も高い項目となった。高い内部コミュニケーション評価（93.8%）から、人間関係構築自体は円滑に行えているものの、「分からないことを明確化し、主体的に解決に導く力」、すなわち「能動的な質問力」が現場で不足している可能性を示している。

また、「伝える力」についても25%が不足していると回答しており、これは「気持ちや意図を伝える力」はあるものの、「職場・専門領域に即して論理的かつ正確に伝える力（報告・連絡・相談能力を含む）」が不足していると考えられる。

今回の調査結果により、本学卒業生が社会人として高い水準のコミュニケーション能力を有していることが示された。特に良好な対人関係の構築力は、今後も維持・発展させるべき本学の教育の強みと言える。

しかしながら、より専門的な職務遂行能力と連携力を高めるためには、「質問する力」の強化が課題となる。今後は、知識の伝達だけでなく、「相手や状況を考慮した効果的な質問の設計」や「複雑な情報を正確にアウトプットする論理的伝達力」に焦点を当てた、より実践的な教育プログラムの導入を検討することが、卒業生が早期に中核人材へと成長するための重要な施策となると考えられる。